

まちづくり通信

- 山鹿協同隊会報 - No. 2

号数 No.2 発行日:1999.1.10
編集発行 山鹿協同隊
(中心市街地活性化基本計画
策定ワーキンググループ)
連絡先 山鹿市役所商工観光課
TEL 0968-43-1111(内線161)
FAX 0968-43-8795
E-mail:yamaga@yamaga.org

山鹿協同隊報告

昨年12月19日(土) 商工会議所2Fの会議室においてワーキンググループの会議が開かれました。その結果、以下の様に各小隊(分科会)に分かれ、各隊ごとに検討作業に入ることになりました。

隊長 本山 幸嘉

第一小隊 「温泉へいこう」

小隊長 松下倫己 副小隊長 本田幸嗣
大塚昭夫 竹田 隆 金木賢治
黒田一男 新 明義 中川秀人
長迫三紀夫 肘井良子

第二小隊 「歴史に浸ろう」

小隊長 河田久徳 副小隊長 坂本正幸
松永高明 井上義郎 角田頼子
山田ゆき子 大坂栄一 中島 清
渡辺陽司

第三小隊 「歩きたくなるまちの 交通環境をしっかりと！」

小隊長 富田正明 副小隊長 山田幹夫
富崎嘉隆 古森美津代 山下純子
大坂憲二 竹下浩一 有働 博
掟 満則

第四小隊 「八千代座から発信しよう」

小隊長 城恵一 副小隊長 石橋和幸
瀬口慎哉 杉尾貞利 前川幸恵
村上由香 中原 忍 米村幸次
木村理郎

第五小隊 「商売を考え直そう」

小隊長 樋口誠祐 副小隊長 荒木伸一郎
松川輝雄 吉良糸子 宮田哲男
幸村英星 荒木洋祐 緒方淳一
徳永龍二 福山健治 堀 洋子
落合克典

第六小隊 「暮らしを自慢しよう」

小隊長 伊藤伸一 副小隊長 鶴 千年
内古閑幾予 奥村正文 江口なおみ
荒木光子 三浦貴子 松岡靖人
堤 政博 堀川武治

現在、隊員募集中!!!

高校生のアンケートから

12/25 城北高校 全校生徒(955名)

ヒアリングの風景

全校生徒にとってアンケートより

- 1、最近山鹿市中心街で買い物をしたことがありますか?という問いかけにたいして『ほとんどしない』と答えた生徒が多く、中には山鹿市に住んでいる生徒もいた。
- 2、あなたが休みの日など出かける・興味のある場所を教えてくださいという問いかけにたいして多かった答えはMrMAX、BIGWAY、サンピアン、クリスタルモールなどの大型店。それに続きカラオケ、熊本市内(上通り・下通り)などだった。そこに出かける理由としては洋服を見るため、欲しいものが何でもそろっているから、交通手段がよい、映画を見るためなどが多くあがってきていた。
- 3、山鹿市が住みよく活気のある街作りをするために必要なアイデアを教えてくださいという問いかけにたいして次の3つの視点から答えてもらいました。

(1) 街の雰囲気、景観、特色など

・街が暗いと誰もよってこないのもっと明るくする・若者が楽しめるような街にする・他の所にはない名物などを作る・公園を作る・祭りなどを多く行う・店の場所が分かりやすいように看板を作る・マンションを作る

(2) 店や公共施設、観光地など

・大型店を作る・若者むけの店を増やす・ゲームセンターを作る・テーマパークや

遊園地を作る・店のある場所が悪いので
分かりやすい所に作る

- (3) 道路、駐車場、交通アクセスについて
通が夜になると暗いところが多いので街
灯をつける・駐車場の料金を安くする・電
車があるといい・菊地や菊鹿方面からの
バスの本数をふやす・道路を広くする・バ
ス代を安くする・駐車場を広くする

4、まとめ

これらの意見を踏まえ具体的な対策を考え
た結果

菊地川を利用した舟下り（旅館とのタイ
アップ）

いくつかの観光地をコース化する（古墳
や山など）

女性をターゲットにした公共施設などを
作る（カップルも女性先導型）

焼き物や紙工芸などの体験館を作る

バスターミナルの設置

の5項目があがった。

策定委員会報告

第2回策定委員会が、平成10年12月21 日に、JA鹿本会館で開催されました。

ワーキンググループ会議での作業結果やヒ
アリング結果を貼りつけた策定委員会の会場
で、事務局より、計画策
定の市民への
周知を図ると
ともに、各
種の15団体



からの中心市街地に対しての認識や期待をお
聞きし、また、今後も幅広い各層の市民の方々
から意見を取り入れて計画づくりに取り入れ
ていくこと、ヒアリング等の機会を通じて、
市民の方に役割を再認識していただくこと、

ワーキンググループ会議を4回開催し、活
性化に向けた主要テーマについて検討してい
ること、庁内に市長を本部長とした中心市
街地活性化対策推進本部を設置したことなど
の報告がありました。

続いて、本山隊長より、これまでの会議を
ワークショップ方式で、どう進めていったか
の説明がありました。

今後、ワーキンググループでは、委員会とし
て承認を頂いた6つのテーマで、分科会を作
り、具体的な事業の施策の検討作業がはじま
ります。

また、委員方の御意見としては、「既成概念
にとらわれず、行政と市民との役割分担を明
確にして、市民の意識を広げていくことが重
要である」などのご意見がありました。

最後に、1月中旬の策定委員会に具体的な
内容の検討をしていただくことで終了しまし
た。



策定委員会の風景

「山鹿協同隊」とは

山鹿を発火点として、西南の役に参加した熊本協同隊は、
自由民権運動の魁であり、その志にならい、山鹿の街は
みずから作り上げるといふ思いを込めて「協同隊」を冠
し、「山鹿協同隊」としました。

温故知新

昔の山鹿のこと

山鹿の温泉は肥後の国第一の温泉であ
る。温泉の発見話として、昔大和源氏の
裔、宇野親治という武士が保元の乱（一一
五六）の際崇徳上皇側に味方し、後白河天
皇側と戦ったが、崇徳上皇側が大敗して
絶った。その戦後処理として、九州に流さ
れ菊池家に預けられていた。その間、親治
は尾登利荘（旧三岳村小島）の庄官として
寺島に居住しており、山鹿の地で鹿狩り
をした折、手負の鹿が谷の沼に来て身を
伏せていたのを見て、その谷に温泉のあ
るのを発見したという。時に保元二年（一
一五七）十二月二十日であった。この頃山
鹿は菊池則隆の二男政隆の領地で、政隆
の子孫が代々山鹿の城主であった。山鹿
太郎重光の頃（源平合戦のはじまる頃）主
筋の菊池氏六代隆直の許可を得て、湯家
を建て入湯を始めた。この日が治承三年
正月十六日（一一七九）であるという。従
来山鹿町では十二月二十日を、温泉発見
の感謝の湯祭の日とし、また一月十六日
の最初の湯屋建設の日を湯さらえの行事
の日としてきた。

参考 鹿郡旧語伝記 湯の町山鹿

補足

山鹿温泉は、これ以前の文献にも記載
が有り、宇野親治は、今風にいえば温泉開
発のデベロッパードでもいえるのではな
いでしょうか。宇野元首相は子孫に当た
ります。